

わたしの一言

胸襟を開いてこそ（新年に思う）

SA いけだ 小谷憲治

「人類の歴史は、即戦争の歴史である」と、誰かが言った。ギリシャ・ローマ時代から20世紀、いや現今まで、刃物がきらめき矢弾が飛びかい、毒ガスが撒かれロケット弾が弧を描きと、まさに紛争と殺戮を繰り返してきたのが、我々人類である。

ところで、平和の尊さはいまさら云々するまでもないけれども、ここで話のスケールをグーンと小さくして、我々自身の身のまわりに当てはめてみたらどうだろうか。

ここで私はあえて、「物理的な暴力を伴わない限り、争い—論争—が進展のエネルギー足りうる」という一石を投じてみたいと思う。私たち自身現役のころ、「切磋琢磨」「奮励努力」すると共に、ルールの範囲ギリギリの線で、抜きつぬかれつのバトルに身をおいてきた。今翻って「よくぞまあ……の感、なきにしも非ず」だけれど、なんのなんの古希を超えた今も、結構生臭い。不条理な事が許せないし、「お家の一大事」には現役時代さながら炎を燃やして意見を交わしあう。その結果は……。もちろん喜ぶべき事に、「雨降って地かたまる」が待っている。文字通り、論争が進展のエネルギーになってくれるのである。

このようなよき結果を招くには、まず複数の場をしつらえて、腹藏なくトコトン議論する事が肝要であり、ときに笑顔を交えるのは言うまでもない。「胸襟を開く」とはこうした事であり、わたしはたとえ火の出るような論争であっても、合意に達した後は、自分の意を絶対前向きに持っていき、論争前のモヤモヤを引きずらないよう自戒している。もちろん相手方も、60年を生きてきた紳士。月日のたつほどに、阿吽の呼吸が生まれる事はいうまでもない。ここに刮目すべき進展があり、洋々たる前途が望見できるのである。

平成19年は穏やかに明けた。アツというまの1年とは言え、われわれのシルバー人生はまだまだ長く、コツコツと積み上げていくべき課題は山積している。さあ、胸襟を開いて腹藏なく話し合おう。そして合意に達したならば、しっかりと手を握り合おう。我々は今こそ青春。不毛の時間を浪費するのは、あ

まりにももったいない。凜と澄んだ新春の空気のなか、わたしは新しい夢に胸を躍らせている。

NPO 法人 SA・ネット大阪についての私見

SA とよなか 岡本 實

NPO 法人 SA・ネット大阪は SA 連協より一部役員により独立して昨年9月に独立されました（シルバー通信 37号-1 参照）。以後連協とは無関係の筈。しかし度々連協各種役員会で話題になるのは不思議で私には理解できない。しかも NPO に関しての月例会の説明によると、もし赤字決算になった場合、赤字は出ないし、出ないようにするとの由、連協の18万円での活動と対等の話ではないので、私には全く信用するわけには行かない。今日現在連協は、より急務の課題が山積しています。今春の SA 構想、新19期生を含めた活性化の手立て等々。物、金、時間の余裕のない私です。余裕のある人は大いに頑張ってください！

編集後記

『わたしの一言』欄を新設！！

今回から上記のように「わたしの一言」欄を新設いたしました。題材は地区 SA 活動にこだわらず、皆さんの日常生活の中で、思っていること、思ったこと等、何でも結構です。ご意見、ご要望、ご提案等、どしどしご投稿下さい。但し出来るだけ多くの原稿を掲載したく考えておりますので、紙面の関係上、次回より原則200字以内でお願い致します。

次号 37号-4 の

原稿締切日は3月1日です。

(発行4月5日)原稿をお待
しています。

投稿先: simohisa@nifty.com

Or picashin@nifty.com



広報誌部会

藤井信治郎